

「水素社会の実現に向けて」 「国際海運の脱炭素に向けて」

日時：7月9日(火) 16:50-18:35 (5限)

場所：国際学術総合研究棟4階

SMBC Academia Hall (対面授業にて開催)

公共政策大学院では、「国際交通政策」の授業において、下記のとおり、川崎重工業(株)水素戦略本部 企画部長 杉浦江 氏及び(一財)運輸総合研究所 特任研究員 / 東海大学 特任教授 大坪新一郎 氏からお話を伺います。

本講義では国際交通に関係する脱炭素関連の以下のテーマを取りあげます。

まず、前半の講義では「水素社会の実現に向けて」をテーマとします。世界は脱炭素へ向けて、いま大きく動こうとしています。エネルギー源としての水素を大量・安定的に、かつ適正な価格で導入するサプライチェーンの構築は日本をはじめ世界中で注目されています。そんな中、2022年初頭、豪州で作られた水素を液化し、日本へ海上輸送するパイロット実証を完遂しました。また、商用規模のチェーン構築へ向けての取り組みや課題についてもご紹介します。

続いて、後半の講義では、「国際海運の脱炭素に向けて」をテーマとします。外航船からのCO₂排出量(全世界の排出量の2.1%(ドイツ1国分に相当))は、近年、効率ベースでは大きく削減されていますが、さらなる削減のため、化石燃料から低・脱炭素燃料(水素やアンモニア等)への転換に向けての取り組みが加速しています。このような動きを進めるためには、規制的手法や経済的手法を用いた制度による後押しが必要であります。本講義では、海運の脱炭素に向けて何が必要かを解説し、それらの取り組みを促進するために必要な国際的制度について考察します。

履修登録者以外の本学学生の参加を歓迎いたします(使用言語: 日本語、本学学生以外の方は参加出来ません。)

※資料は、UTOLから入手して下さい。授業開始の1時間前までを目途に掲示します。

—問い合わせ：交通・観光政策研究ユニット ttpu@pp.u-tokyo.ac.jp—



川崎重工業(株)
水素戦略本部 企画部長
杉浦江 氏



(一財)運輸総合研究所
特任研究員
東海大学 特任教授
大坪 新一郎 氏

「総合鉄道メーカーのグローバル展開」

日時：7月9日(火) 18:45-20:30 (6限)

場所：国際学術総合研究棟4階

SMBC Academia Hall (対面授業にて開催)

公共政策大学院では、「国際交通政策」の授業において、下記のとおり、(株)日立製作所執行役常務・(株)日立ビルシステム代表取締役 取締役社長 網谷憲晴氏からお話を伺います。

コロナ禍におけるロックダウンや移動制限により、鉄道業界を含めたモビリティ産業はこれまで大きな影響を受けてきました。一方で、環境問題の世界的な意識の高まりは、各国のカーボンフリー実現のコミットメントを加速し、その潮流はカーボンだけでなく、サーキュラーエコノミー、そしてプラネタリーバウンダリーへと繋がってきました。鉄道を中心とする環境特性の優れたモビリティへの期待は引き続き高く、移動の目的の多様化を支え、人々のウェルビーイングを高めることも期待されています。このような中で、中国の巨大車両メーカーの誕生に加えて、これまで世界の鉄道産業界をリードしてきたBig3の2社の融合など、業界再編は加速しています。

日立は2000年頃から英国市場参入を見据えた取り組みを開始し、2015年にはイタリアの老舗鉄道車両メーカーと、信号およびターンキープロジェクトを得意とする信号メーカーを買収しました。更に2021年、フランスの防衛・航空宇宙大手企業の交通システム事業を買収することに合意、鉄道プレイヤーとしての国際的なプレゼンスに加えて、鉄道事業におけるデジタル化の加速を図っていきます。

本講義では、業界の動向を踏まえ、日本企業による海外鉄道事業の取り組みと今後について考察します。

履修登録者以外の本学学生の参加を歓迎いたします（使用言語：日本語、本学学生以外の一般の方は参加出来ません。）。

—問い合わせ：交通・観光政策研究ユニット tppu@pp.u-tokyo.ac.jp—



(株)日立製作所
執行役常務
(株)日立ビルシステム
代表取締役 取締役社長
網谷 憲晴 氏

「グローバルサプライチェーンを支える 国際複合一貫輸送」

日時：7月16日(火) 16:50-18:35 (5限)

場所：国際学術総合研究棟4階

SMBC Academia Hall (対面授業にて開催)

公共政策大学院では、「国際交通政策」の授業において、下記のとおり、日本通運(株) 特別参与 石井孝明氏からお話を伺います。

グローバル化の進展で国際間での物流が増加の傾向にあります。諸手続きを簡素化した海上輸送、航空輸送から内陸輸送への一貫したサービスが強く求められています。近年は貨物の所在なども情報の進展によりリアルタイムで把握できるなど、国際複合一貫輸送の環境整備に一段と関心が高まっています。

本講義では市場が求めてきたニーズにどのようなサービスが展開されてきたのか、また将来的な課題解決に向けたロジスティックソリューション視点での考察を行います。

履修登録者以外の本学学生の参加を歓迎いたします (使用言語：日本語、本学学生以外の一般の方は参加出来ません。)

※資料は、UTOLから入手して下さい。授業開始の1時間前までを目途に掲示します。

—問い合わせ：交通・観光政策研究ユニット tppu@pp.u-tokyo.ac.jp—



日本通運(株)
特別参与
石井 孝明 氏